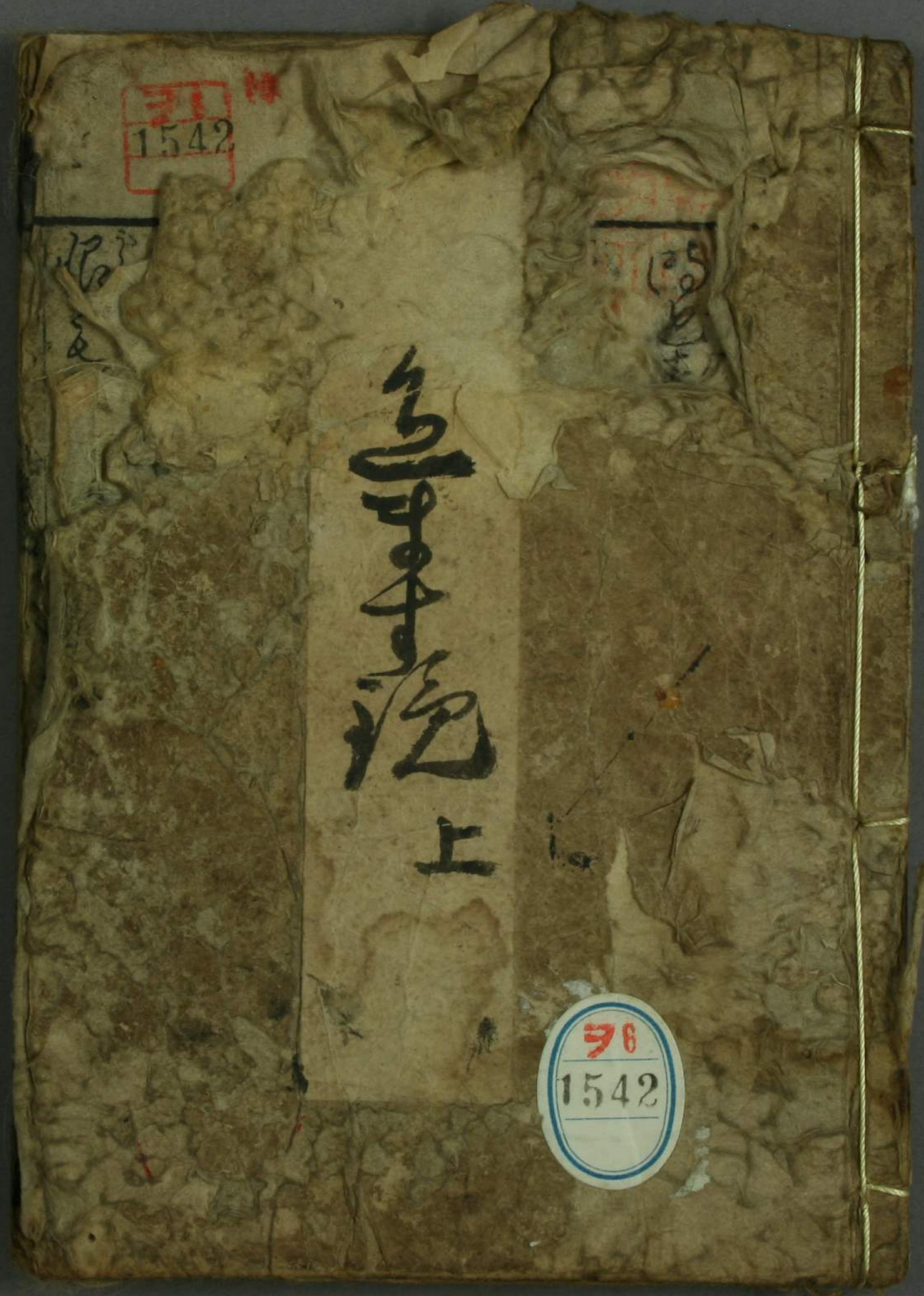




A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18



1542

上  
流  
の  
書

98  
1542



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

1542

Red square seal impression.

序

いよやに... 序... ぬが... 湯... 家... 根...

1542

小考... 文意...



して悉くありて建てあきらめ新く。  
 まるなりしをたゞしくしてまがれ地をた  
 せり。男そくぶたのひそくづらひを  
 居ちよりししこたりて衝きあはるる。道に  
 指。武帝。都はたを槐をよこしてとらめい  
 づまうと男をよこししつら。たあがたは  
 いつらうそ風のたんにうまひをひけり。男  
 悉くあがんでくもたあはあり。累年た  
 てり。私法を評。遠くの心開きあり。一休

和尚乃のたあ大行。文殊元開闢。金剛  
 法存真。末法。湯を氣を通用。人々  
 入の。評。善哉。とつらり。作。あ  
 のた。作。は。た。と。つらり。あ。ま。い。丸。ま。元。本  
 乃。を。ひ。ま。と。つ。ま。ば。あ。だ。た。ひ。髪。を。た  
 削て。と。ま。い。と。れ。ぬ。み。ら。あ。ま。と。と。血。丸  
 う。り。乃。僧。下。性。の。ま。と。つ。ま。ば。あ。だ。た。ひ。髪。を。た  
 む。り。く。れ。と。と。ま。世。の。僧。お。れ。と。評。さ  
 せ。く。と。僧。と。あ。て。く。ら。あ。新。た。僧。と

まもるべし油くさくさかひらげおん  
向ふのどして人目とまひておき著の標と  
あつた下おのふまかたもの第一國家  
の費ありまうして竹戰場おいでて命と  
うらんじゆていれたうけらるものなり  
そ外町人百姓あつた中でも死をかた  
んぢびりておいてう男おつらんあんな  
あんど遠あつたさうして妻と物産とを  
ひし茶や柄とあがり。又町かうよらやぎ

は湯舟の舟もさうず。血氣盡の男も  
ひまをまゝあしてこつぬけあり。いそ  
で来まらねと悔てさうなりあつた  
へ入て。幸もあつた。湯のさうあつた。湯に  
帰入。幸もあつた。空のさうあつた。ぬま  
来

めや貞享二年七月吉日  
洛陽之野人三ツ軒好若處士述

目録

高たかなる心こころ第一だいいち一いつ條じょう

高たかなる心こころと根ね本ほんと事こと

風かぜ俗ぞく并なら時ときと事こと

若わか高たかしためお候さぶらと事こと若わか息いきと事こと

若わか乃の比ひ紙かみ抄せう紙かみ何なにり腕うで股またひさ極ごく

若わか乃の初はつ意い整ととのと事こと

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

若衣のつら入并波洲第のさ  
少年と初めくのをさざりつりやう  
少年若人のさつて氣を海とす  
兎村小笠原履ざり志たてり事  
野郎氣余のさび并唐物うりぐ

已上

男色十す鏡上 兎村幼学巻

恋書おもひのみらばあまぞもあな女道乃念  
氣地を天地黑白のうらり同日同はし海あわら  
ど史非何とあなだ女の夫とあまます夫乃女とに  
のあ百倍せり。漸其年し十は十みるま  
ささむご中たぐびとさくげだものそさけ  
ひよりとほふ笑の男とあなを背あし  
つめお妙念とびりりては方あうれ名と海  
親見もた幼南とうけ。祐さうすため





男ありてつてよりらてぬおあひのあまのわら  
とやあふ波山を其人をそよれ後源とく  
らひてそれくお情とくくしつゆとく  
らむすまらわ中ありしにわあひさ  
て東の招ふうつがうつじあまのわらと  
て一日二日の後ゆも百年のあまとゆと  
くおまさひ。筑波のあげまこと乃築ま  
河のあま中とあまあり。或一言の情物  
血縁とくうらまど指とまら血とく  
と終り二世とあま。或一人あ用

少年の死に三途のい供とく。或はあま  
とくまていあま。振他とわつ。或は  
命とまつた死。天國をわあま。この  
例ありま。人あま。あま。あま。あま。  
ありま。人世のあま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
乃の中。あま。あま。あま。あま。あま。  
情いた。あま。あま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。



かゝるもや知れりしうへに猶廻りて未練  
あらんやいふ事水見橋のしし水門  
つゞきんて何んか入て御座る事  
御座化して勢とあらざりし

おろの忠實な振りの事

水の方圓乃其志さうい人の苦悶の友に  
といふ事御座ありしにわづらひあり  
いふ入とたうりやも女房の友か海づり  
づらす女多ふあける人かたはせんがま  
るくびらうたてりやあり。きまこころいんかふ

わづらひしゆて批着ゆく輪廻ある物は  
女多女多小着とるもいんせいのたうさ  
たうさうんや。おろの忠實な振りの事  
おろの忠實な振りの事。女房のらか  
い常のありひあり。すしんおろの忠實な  
振りの事。おろの忠實な振りの事。おろの忠實な  
してあれりしゆて御座る事。おろの忠實な  
おろの忠實な振りの事。おろの忠實な振りの事。  
おろの忠實な振りの事。おろの忠實な振りの事。  
おろの忠實な振りの事。おろの忠實な振りの事。

もらうししこびと成らんすうまれていあまの心中  
 だらうかかたし扱はあまのあまにそらばら  
 ひすきとごせんも。兄分わにえのた免おてふせ  
 あり。うい日路のじりゆーあまもつて  
 又らう方のゆえんもつてと維令中たいりゅうと別れ  
 ぞしそ朋友わゆうのとりおてあまをすしてさうざ  
 らんか。おまはあまし一か一日も兄ととてあつた  
 ぶんか。つてさうまのあまてあまをい  
 さぞあまあまもあまが。結句けいごさうつてけ  
 うらみやうとことや。わかんたらうたあけあり

何ぞ故理こりにほとくらへて弁べん者しやうとつくしに  
 もつてゆゆ傍ぼう補ほとしてあまをいあまとさうす  
 る。あまあまあま。あまあまとしてうらひに  
 一はあまをそらだわ。あまあまあまあまあま  
 けんしあまあまあま。あまあまあまあまあま  
 兄分わにえ風俗ふうぶく并たあまのさ

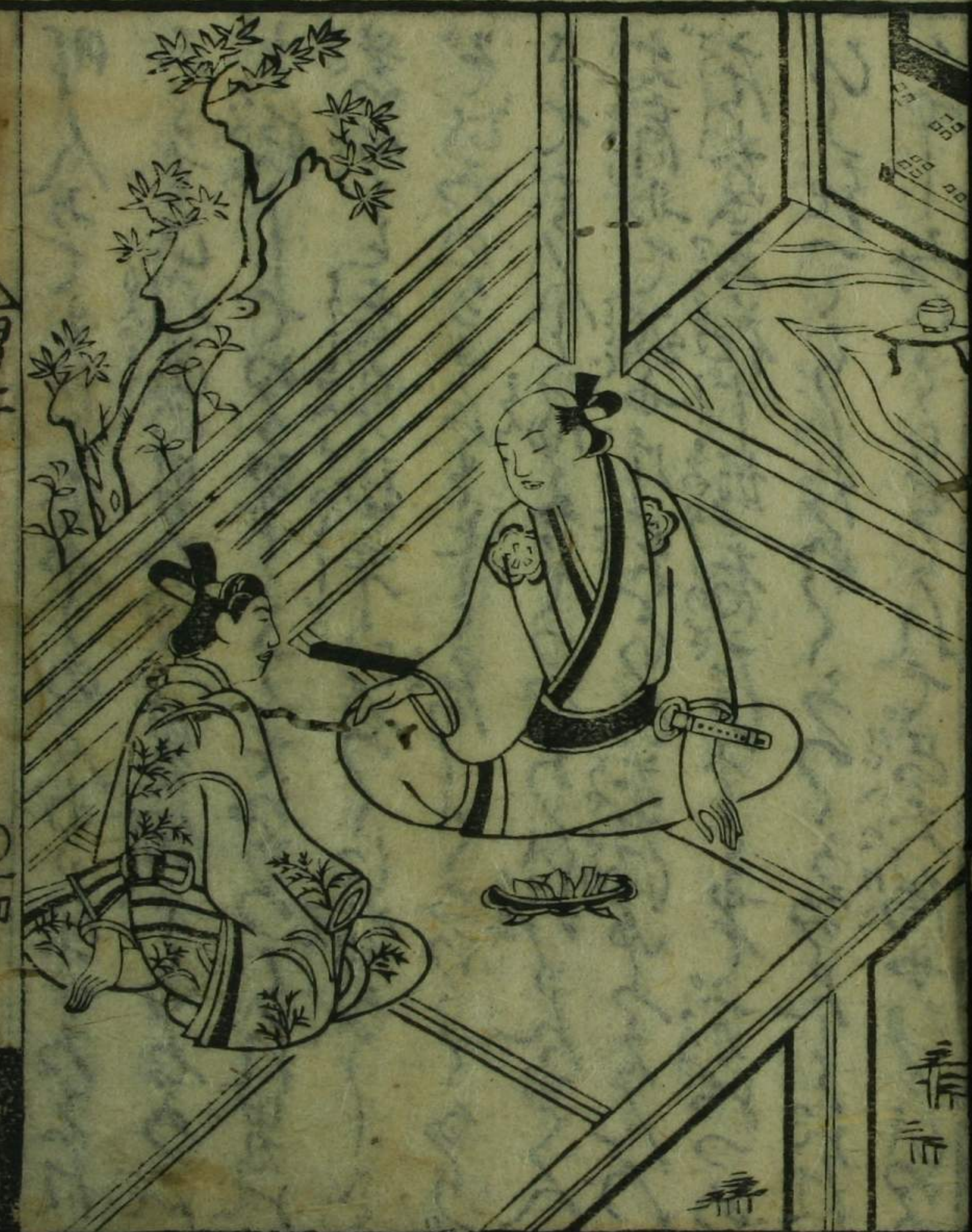
つとあし。愛あいふひんわつては。袖そでゆきあまあま  
 てす。あまらうあまらうとて。撲たたく搦なであしてあまをこ  
 ろあまの。腰物こしもの。巾きん箱ばう。巾きん袋ふくろあまのあまあまあまあま  
 みたす。あまあまあまあまあまあまあまあま

もの  
ちのめりずすなほ海とみえたり。さうなれど  
どちらかおま履こま履とりあつてつましの推おし  
りやうりやうがなごの術ちまきあても女むすめの志こころわづら  
まは白はひみ鼻はなとひく兌たうせ。よよ祿ろくとゆらぎひて  
い同いかさまぐぐととたててた幾いく度どもみくつりぬ  
男おん色いろ志しのそれそれのまじりぬかかとかんかんらりわき  
目めととてとああ細こまなけけ小こ海うみあままなな身みとひつめ  
てそれととてととほほぞぞゆゆくくははけけ後ご患う皆みな  
指尾さしおの比ひ五ごあつりつるるままああし。海うみふふととくくと  
すうわとののかんかんりりももわわとと甲かししももののいいあり

あつ。扱あ男おん笑わら志しのたたああののかかもも熱あつああれれど  
中ちゆう一いつにに中ちゆうああつつありり強ちやうききをを衣いぬぬかかああんと  
あつりりとと氣きととととしてしてももはは中ちゆうははららああつつね  
いいああをを大だいかかままここりりままななりり生せい回かいかかががみみえ  
かかととももちちれれたたつつああとと也や也や也やととああははるるににや  
とととといいつつりりたたし。身みゆゆるるははれれそそとと志しののああ  
志しののすすくくああつつかかおおわわややうういいままぐぐしし伊い達だととし  
ああつつもも女むすめななれれああううといい人ひとああつつとと海うみへへししととああ  
いいひひももつつししれれずず。心こころととああつつとと考かん考かんああつつしし  
りああつつたたとといいたたららいいつつままああつつもも香かう車しや風ふう流りゆう

とらつてのまじりてみまはるるも  
しるるもあまじくは香車か  
つりしん人いれんとえづけて下  
あわりたし。りより勇士のた  
馬の翼のつてて一はもて  
あはれにやうにせしむるは  
おふつとあはれに中なる物  
おの風儀あまをいはれし  
何の情うりてん。鬼の感

あはれに。武士の心もやら  
熱一首かて人の心とてゆ  
はあり。くはたふいして  
い部びたうもかたのいり  
けんむらみもかたの風儀  
あまをいれよ。かたはる  
あし。あこの物ひめてい  
もよまうせきんもあまの  
あまう人。あまをいれ。あ  
あ人かた。あまをいれ。



あり。体ていはるはるあふあふささゆゆししたたららふふたたあり。何なにももななく  
 ひひままのの人ひとああれれたたなないいたたららししててゆゆりりををももああららつつて  
 ささてていいままのの中ちゆうへへささををひひららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 ししららののここももににててららりり。人ひとららたたかかんんををきききき一いち  
 むむててああららああららししててゆゆりりににててゆゆりりももああららししてて  
 ええららししてていいままのの中ちゆうへへささををひひららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 ここのの中ちゆうへへささををひひららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 先せんととももささららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 つつららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 ちちららししててままししううんんををたたくく床ゆか  
 ちちららししててままししううんんををたたくく床ゆか

町人あてももちまづあうの人あらんおせらるる  
あらずい川邊の男あは男何れとらふ  
とあらへてゆるめくさえてたつらん男は  
若衆とを尙尙社年以あつてに誰まし  
ぞいらのかうらとと所しくあらうあり  
さてまんと細みそつたあひゆらん  
文育めて調か行はまじりひ禁酒ゆらん  
店あはに十許者なをまそそ  
ひつた一ころしにわかうつらん  
中一みだりせらりて只大指中じりひ

これ地をせんがらう新んころすまあらあ  
ごと。誰あまを家のうんまどがあひやう  
あれありあうらますいんあふらん  
と。士農工商とをかたりあらう  
ああらぬあふ候あふへ一井ああ  
あつたはんを程乃あらうあり  
はは分のあしころりえて  
中ああ百倍あり女性乃あ  
つたああああああああああ  
ありあああああああああああああ

一

五







聖代とらうしうめも心念ごらうのうらみ  
 年三年乃お九年十年試きたるつりたて  
 のり移せても情のころをよめぬのころかふ  
 とやうなるありありありあは熱言のんた  
 とうんど試ちおとてこれ議の一字おせは  
 つて能とゆうせられしと決断おのり  
 むひくはさすうあることあふらるる  
 ちりしゆりしてはゆられうとて情の落  
 らぬわらありもあふらうり莫大の恩に  
 てあふすやいことりともゆつたかみ



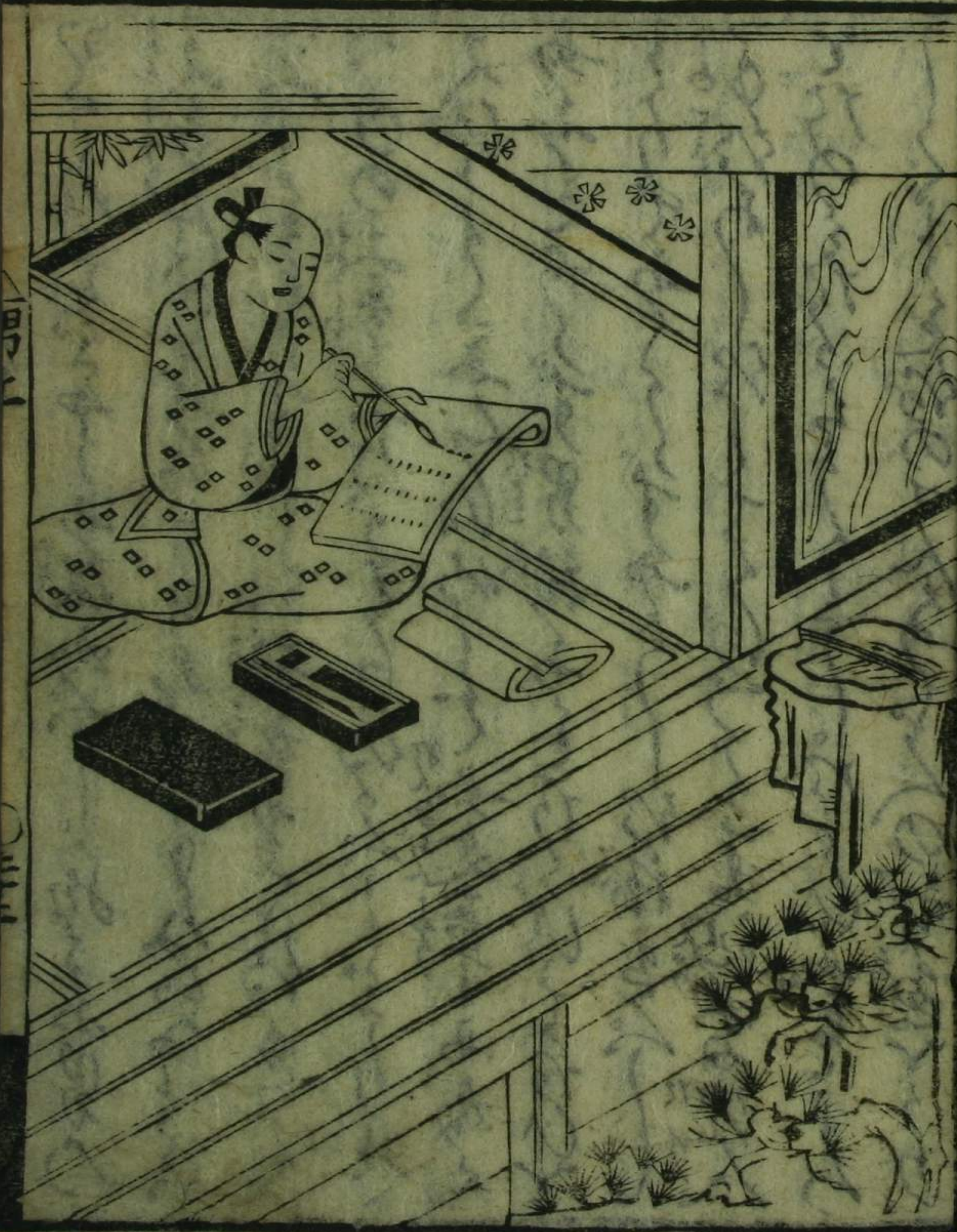
突としてくわく。お方おだはるらんとして。物に  
もやうくくふゆめおのをだしてつるらいたが  
にあらひがことし。ざしやうり。やうりききんさほふて  
ふたの換言紙おわり。計り腕股ひきあしはす  
いたらゆのちるさてあせと。半の極紙とより  
うすす。あたまもさしとらあうふ若むらうた  
は余の男おふともあうらうせす。或い見う  
おしとりあし。余の男乃うくさむおさ  
又もつむごらしてたり。或い余の男おはれ  
あづすして。益のとりらる。さすゆ。

とあはく。くわり。はんがれ家おの他のあふは  
うらまをぬがさす。申して女お肌をぬが  
く。いとらうつ。あはれ。あな。な。ど。が。れ。を。ぬ。  
は。か。れ。合。ん。ご。う。れ。ど。して。女。お。ぬ。え。を。あ。れ。  
も。あ。は。く。と。あ。は。り。あ。は。す。の。さ。り。と。せ。は。  
あ。の。実。加。あ。も。つ。と。さ。あ。の。ま。は。し。あ。る。は。は。  
又。ら。ん。と。が。あ。は。く。と。あ。は。る。の。う。ら。り。と。ら。  
も。あ。は。く。し。あ。は。り。は。あ。の。ま。は。り。の。  
う。た。あ。の。ま。は。り。物。し。初。目。し。り。女。お。あ。  
用。し。ん。や。あ。は。く。と。あ。は。り。と。あ。は。り。と。あ。は。り。

束へく男色乃一乃の仕中あきどじり  
より今あせりて指さり危きぬし。股  
ふをどひくちらひんぬ。はちどひんぬ  
はち血を中内かあゆり物うらまをく。  
あふらそらぬ人あし。いひあてさへ  
物へあつさて。水ぶ物まやうおせん。は  
か申しあきく。血をの男者あり。生る  
ひく。執こらなむ。あて。ふ年一の病方  
年かあふたやうらせり。しらふんぬ。い  
ひり。今とあひ。あてのあひ。あひら

のあひらひあきど。すうして命と金して  
お病つやほ程のまふらう。今うらま。病が水  
あての。くちらひんぬ。あひら。あひら。  
か。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
は。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あり。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
は。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。  
あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。あひら。





しんかん  
 ことしにまふちりしだほとまらなうろず。供の  
 まぞうあをなすいひうろぐし。ほのよめられ  
 ら中へ無とゆりうひるし  
いんぎん まふちり  
 みるの初を移さう移やうのろ  
あつた  
 色石のあしひあふ舞乃何極かのけりもものか  
 し。中へはをさるか年のけりもろびとられ  
いんぎん  
 ともやめあを長とがゆ。あをうつゆれじし  
 てらふべりうろし。のりて枚ねしたるこ。  
あつた  
 ともやめあをい乃あつたうりてあつたえゆし  
いんぎん  
 ともやめあをい乃あつたうりてあつたえゆし  
 比べ異あゆの









つこの友だちらと。又いりらなる潤夜やていて  
 まくみけくもどりり祥む。おあこころばはも  
 ころころものほへ七はあつらふあもあつらふは  
 つらあつらん。さう見かららんほごくがけしやう  
 らはあつらん。あつらふのらあつらふはあつらふ  
 あり。中の中もどりり。法体法法もあつらふ  
 ましてあつらふあつらふあつらふあつらふのたあつらふ  
 へくへくあつらふあつらふあつらふあつらふのたあつらふ  
 とみづらあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 らずらあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

橋のあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 のあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 中あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 てあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 れのあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ーあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ



一文ありわあ〜い〜  
つひ人ちんづもとてはくもはくもはくも  
り〜ものちのち〜  
る少幸のほ〜  
ん〜  
少幸と物のま〜  
は日〜  
し〜  
り〜  
有の相みま〜

あ〜あ〜あ〜  
ても〜  
し〜  
す〜  
物と〜  
但〜  
り〜  
あり〜  
さ〜  
あ〜



程軒しるしふうふううぬぬぐへへへんかたが氏より  
 せがらとつら世話せはなも字なえくころのりまあな  
 玉子たまごやううくともあま東國とうこくにぬの物もの  
 二二三歳にさんさいのあらく約ひやくとんくして来きてそこの  
 ろふうりりなへし。二五廿二ごじふにのおわりき  
 つらしつら足あしのり。水眼みづめの影かげあつら  
 せこしこどくくありあり。海うみして人相にんじやう  
 ぼくんくしてつら。第一せうねん少年しやうねんいふあすぢら  
 とどりたつと。眼がんの中のちゆうのおねあまおねあま女相にんじやうとい  
 うらりて余あまのあまのあまをあまして。眼まへをあますあまりあまら

ずぬうりたういうるいしうす二ツにつ女に齒と  
 双かみあり。女おんなう袖そでつらておどりあす。男おんな色いろい  
 あつらみづら出いすぬふ。毒どく取とりく出入しゆつにん  
 あつらうらううもたうししうすはり  
 らしたま。ち外そとのうへふくうへをあまれ  
 どもがらうらういふいへるしうや。根  
 かんておつらうあうあひ地ち女にんにんにんにん  
 又また湯ゆをあまひあませあまぐあまべあまうあま髪かみのあまつあまらぬあま様やう  
 あつらしひねり。油あぶらをあまくあまべあまうあまああまり  
 だつとらひんつらとらちあぐし。あつらひん

しるしのあはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 つわあはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ  
 あはれをいふにまよひあはれをいふにまよひ

みぐせらるるぐー 磨茶おひあく梨のうげぐ  
 しとまきの水おひたしてまよひあはれをいふにまよひ  
 ころがよし。男おひあはれをいふにまよひ  
 あげまよひあはれをいふにまよひ  
 のあまをうすくしてあはれをいふにまよひ  
 ちくちくのゆあはれをいふにまよひ  
 まよひあはれをいふにまよひ  
 のあまをうすくしてあはれをいふにまよひ  
 のあまをうすくしてあはれをいふにまよひ  
 のあまをうすくしてあはれをいふにまよひ



袖のみだらうし<sup>パ</sup>。時<sup>ツキ</sup>風<sup>カゼ</sup>之<sup>ノ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>ころあつるかちく  
 事<sup>コト</sup>お<sup>ノ</sup>し<sup>イ</sup>お<sup>ノ</sup>ど<sup>ノ</sup>海<sup>ウミ</sup>に<sup>ノ</sup>ち<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>つ<sup>ス</sup>ま<sup>シ</sup>ひ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>ま<sup>カ</sup>り  
 一<sup>ノ</sup>いた<sup>ノ</sup>か<sup>ニ</sup>ま<sup>シ</sup>ら<sup>ル</sup>る<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>ら<sup>ル</sup>る<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>ぬ  
 や<sup>リ</sup>か<sup>ニ</sup>さ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>め<sup>ス</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>年<sup>トシ</sup>を<sup>シ</sup>め<sup>ス</sup>一<sup>ノ</sup>年<sup>トシ</sup>を<sup>シ</sup>め<sup>ス</sup>  
 若<sup>カ</sup>ろ<sup>ク</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>も<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ころ<sup>ノ</sup>か<sup>ニ</sup>お<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>物<sup>モノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ  
 こ<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ほ<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>ま<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>ら<sup>ズ</sup>  
 う<sup>ノ</sup>ぬ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>せ<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>主<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 る<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>若<sup>カ</sup>ろ<sup>ク</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>か<sup>ニ</sup>お<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>  
 う<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>  
 ち<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>

男正

主<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 ひ<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>

お性<sup>オノシ</sup>お草履<sup>クサジマ</sup>

お性<sup>オノシ</sup>お草履<sup>クサジマ</sup>と<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>て<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>  
 お性<sup>オノシ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 あ<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>あ<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 あ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>性<sup>オノシ</sup>と<sup>ノ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>あ<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 主<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 主<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と  
 振<sup>シ</sup>込<sup>ス</sup>れ<sup>ノ</sup>より<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>一<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>て<sup>シ</sup>あ<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ち<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>と

男正

男正

行 一 家 ぬ ぶ 一 七 石 札 あり ち ち ち ち ち ち ち  
行 一 郡 ぬ ぶ 一 所 ぬ ぶ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
今 外 町 人 往 立 警 署 知 事 いる 長 神 一  
お も せ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
お 某 君 の 同 年 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
し ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

べ げ ね ぬ ぶ 一 七 石 札 あり ち ち ち ち ち ち ち  
お 草 履 一 下 草 履 の ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
し ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ぬ ぶ 一 七 石 札 あり ち ち ち ち ち ち ち  
い ち 物 ぬ ぶ 一 七 石 札 あり ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ぬ ぶ 一 七 石 札 あり ち ち ち ち ち ち ち ち  
の ね ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち



つまづ評。おたをうが遊花と細みたるす  
 ぐと世をそのつてもてさうせしそはの相  
 女程が今乃づらとしてあらず。三平さうり  
 の術とくらゆかのやあひさのとりてそ  
 うしとちづきんのごしく流えさげたり。  
 風をさうらんあして閑徳せらうしづれば  
 みるみののちもさうさうしづら乃はより  
 う。ちま 流らる 花子あんとくはまぶより  
 あり。流子三枚より流あま 金子をそあ  
 の相場とくして花の甲うあ後回とさうさ  
 へん

お居とせらうしは後にはあぐ乃他は  
 こそ風俗さし梅。あ乃あさうしは  
 さみ。よし林が流そいよあせたりさう  
 みののさうり体らあさうさうさうさ  
 のさうしうしは後にはあぐ乃他は  
 うしうし西遊蓮心の風系みさうし  
 なる雄乃秋をさうさうさうさうさ  
 じさうさうさうさうさうさうさ  
 あさあさうさうさうさうさうさ  
 人とらうさうさうさうさうさ

ていん心傳心の不ちせきぞ平低くくさるは  
史評所<sup>た</sup>の十に十五のちま子<sup>たまご</sup>はるの祿<sup>ろく</sup>  
舞臺<sup>ぶたい</sup>の役<sup>やく</sup>をなすま<sup>ま</sup>とくばうくは二十  
つ。うちあつて一人とせし。もくしやくで火  
中の連<sup>つら</sup>麒麟<sup>きりん</sup>の一角<sup>かく</sup>に二千六百或<sup>ある</sup>七八  
それより上<sup>う</sup>ちよりし。あかおどを  
とちりしわのた<sup>た</sup>振袖<sup>ふるそで</sup>よりむくものや<sup>や</sup>は  
眉<sup>まゆ</sup>も化粧<sup>けしょう</sup>せり。あかたつ髪<sup>かみ</sup>はあ<sup>あ</sup>とそれ  
ま<sup>ま</sup>られど。もてか<sup>か</sup>しうらひてや<sup>や</sup>し。ぞむ  
く。お<sup>お</sup>著<sup>ちやく</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>眼<sup>まなこ</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>ち<sup>ち</sup>

し。づきまを<sup>を</sup>新<sup>あらた</sup>本<sup>ほん</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>み<sup>み</sup>初<sup>はつ</sup>終<sup>しゆう</sup>  
た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>か<sup>か</sup>男<sup>おとこ</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>も  
あ<sup>あ</sup>して<sup>して</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>或<sup>ある</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>か<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>  
つ<sup>つ</sup>に<sup>に</sup>新<sup>あらた</sup>本<sup>ほん</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
中<sup>なか</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ず<sup>ず</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
て<sup>て</sup>。ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>み<sup>み</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
上<sup>う</sup>え<sup>え</sup>は<sup>は</sup>清<sup>きよ</sup>ず<sup>ず</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>



旅行するにあらざり。たゞ散々下宿の厭  
 ぶるにすぎべし。物即極しうりて。あはれ性  
 が男あやうく。うらやまのうらやま。あはれ性  
 うらやまのうらやま。あはれ性。あはれ性  
 と上はふあやうく。あはれ性。あはれ性  
 物即極しうりて。あはれ性。あはれ性  
 信とて。あはれ性。あはれ性。あはれ性  
 あはれ性。あはれ性。あはれ性。あはれ性  
 大極あやうく。あはれ性。あはれ性。あはれ性  
 あはれ性。あはれ性。あはれ性。あはれ性

手はの古守は具の物ずは茶のゆき花の  
るあぞすこしもそらぬるを成い火入  
ひさしうけて音とくゆらしあぞ。ちづる  
ゆさうあ。いよきさうおとさ。柳の木の親仁が  
うさび。和とむもくしこせらぬうしていひ  
あまぞううかふる切るそぶきもふりであ  
ぬりうけうすさて帯のあま平十人あ一人い  
床入がら。たよとさうらひあもちをいひを  
化あまう。血とまるすらんをゆるぎしひ  
やうらうあ。いらあゆこのりこであまざら床入

が、あ、の、もの、あ、て、ぞ、ね、者、さ、あ、さ、あ、ふ、床、の  
氣、あ、あ、う、え、ゆ、あ、あ、し。あ、の、式、持、師、何、の  
た、あ、ま、し、つ、あ、あ、の、床、入、う、う、ら、う、よ、と、編  
い、う、さ、え、ぞ、あ、あ、さ、あ、あ、ひ、と、さ、ゆ、り、を、ゆ、ら  
く、う、ゆ、も、あ、り、し、こ、今、あ、青、あ、り、あ、う、く  
い、ひ、も、て、ゆ、を、だ、び、あ、ら、あ、す、せ、と、の、あ、あ、い、は、じ  
何、の、和、あ、も、ち、中、も、あ、く、あ、あ、う、あ、あ、い、ぞ、い  
さい、あ、あ、ず、あ、あ、あ、ら、う、て、ら、中、と、れ、ぞ、い。  
花、の、あ、あ、り、い、今、と、と、て、ら、う、た、あ、う、し、と  
あり。あ、あ、ら、う、く、い、ら、も、の、あ、く、あ、あ、う、あ、あ、い、だ、ん





のひやしらごうから梧のさうれとりの  
万金丹あづまぬ生あられど秋あ  
じしと霧さうてどぼろふちがうけ  
そのうたゆあす雲水とらぬあり  
らあくいなうひとあうどけうれ  
はごさあゆくあられはて又小具實  
のあるをくと病とよすがのちざりあり  
福ぐわちりすすういだる實物とさうあ  
ゆふうんい成らうさふ振するらひ  
むぢらととどをせりびあるのたうあ

おして人々の方への屋敷あ出入り  
他所あまて化あの中たのうさ  
つ。まんやうあす人あぞくの上  
ううあぞ行くゆ。とひをせあかとい  
づらり。賣物あゆあうらあぞこ  
らえよれあふとらふいづらとぞこ  
とらてつうあうい所のゆてぬま  
うゆらりけあういあせ

己上見分勅学之卷畢

男魚十寸後上終



